

萬壽樂

矢田周成  
萬壽樂





朱樹翁閱  
綠竹叟剽

雅人深致

八巢蕉雨輯



俳句者、和歌之流也。猶詩之有絕句歟。自蕉老倡正始之音。海內風靡。子今百有餘歲。蓋吟詠情性者。莫近於是焉。信陽蕉雨好斯道也。凡四方騷客之各任。而其傳聞于



亡者莫不錄焉、乃者選其最佳者、  
輯成一卷、會方明探更科、  
次其家、便托達諸係、  
而敦曰、大哉、  
難之、我亦以吾所好、  
剽出古語類、  
謀分而策鑄之、  
每句之首、  
與齋半江、  
與朱樹翁、  
與閱焉、  
與朱樹翁、  
與閱焉、  
與朱樹翁、  
與閱焉、

待之有小序也、得印而句意益、  
明矣、既而又致諸朱樹翁、  
數四而後還之、  
與切劇不啻、  
哉夫吟詠情性者、  
雖則源子百歲之上、  
與正始之音、  
其可不和焉乎、



寛政丁巳如月雷首平長孺書于  
鳩盈居之南白下



萬壽無疆

可都里  
士朗

可都里  
士朗





煙波釣叟

こころのうらみはなほなほ

素壁

とくしとくしとくしとくし

泉北



寂寞

とくしとくしとくしとくし

大阜

とくしとくしとくしとくし

芸門

とくしとくしとくしとくし

路人

とくしとくしとくしとくし

龜年



科頭箕踞

とくしとくしとくしとくし

五明



火桶へてし木阿のいふあうり 宗讚

ちやとほろけのたのたの 少汝

申あらし暮のたののうら 蘭二



白雲紅樹

みみののたのたのあうりあうり 玉層

まふれいふあうりあうりあうり 山阜

まふれいふあうりあうりあうり 桂五



望美人兮天一方

右六顆 餘延年鑄

まふれいふあうりあうりあうり 道彦

むさしあうりあうりあうりあうり  
あうりあうりあうりあうりあうり  
あうりあうりあうりあうりあうり

夕園あうりあうりあうりあうり 伏青



桃花源裏人家



たらの日ぬかりの糸とよき花  
 乃くもやうふらうふらの言  
 吟おしえけいあまき梅うね  
 蜂も二月のさうくはかり  
 ちからいふをうさるもんは

長翠  
 忍阿  
 昆明  
 春花  
 亞溪

青山不老



老翁木よりあつらうその月  
 枇杷をよして  
 かりあやうき梅小歌けり  
 早梅小歌にて  
 晴一羽松とよき風うり三日月

菊溪  
 延至  
 騏六





王孫歸不歸

花もさきゆな〜ゆふとぬまら  
 ちか〜ちかのあひ飛を尾む枯らる  
 あきまなりけりうすもやぬの風  
 鴨もや泳ふか〜りあふらる  
 急丁もん登り回らさ〜く  
 舟はらの三幸あき

斗入  
 双鳥  
 紀風  
 急丁女

湖を一日してとら〜るは〜りゆ

羅城



極楽

夕ぐれもゆきまゆの海の月  
 あ〜な〜り好い大月あ〜ん  
 月夜の月好ら〜り〜るあ  
 舟もあ〜りあ〜り月れ梅さし

青阿  
 樗堂  
 奇哉  
 馮月

青阿 樗堂





紙窗竹塵

そのあはれもよもやも  
 ありてはふもよもやも  
 不月る小燈くはれぬ  
 うるふらのふかひん  
 夕のあやのあはれ

白圖  
 徐英  
 尺艾  
 雲帶  
 寧園



冬一裘夏一葛

初〜うれぬの像を  
 岳格



閉門讀奇書  
 開門延高客  
 出門尋山水

成美



井一のふらふらとある  
重厚  
梅好



山中無曆日

右八題

郵美成鐫

床の尾ふさふさ  
素外  
希言

一竿風月



河原菊  
北如  
如毛  
李三  
大臈





顔如玉

あまのこゝろをいふは人の志  
 も物事の端をいふは人の身  
 七夕もやまといふは女房也  
 騏道 作良 艸人

尚玄人



暮もいふは人の心  
 秋風やと雲のやと木の枝  
 あまの風をいふは女房也  
 人知ると人の心は人の身  
 日ごとくいふは人の心  
 夕の日のいふは人の身  
 素郷 椿室 兆雲 一之 由梅 知足 外六





濁酒枯魚

大幸や金出てもむし  
園やたらおのれりし

白居易  
卧尖

幽然深遠



行なむじふも枯也  
日く

冥々

小園越せりし  
おとがし  
と張る乃ん  
涼しこの月

班鳩  
壽松尾  
奇三  
菊丸

落く長松



在りや月おし  
入素

入素



美中可あしあけ月けりてん  
 そのかみ麻ふつをわしん  
 かる猿猿あしあけのりてん  
 柳てんかたのすけりてん  
 橋本小油きりてんてん  
 子規月あてんてんてん  
 紀の川のたてんてんてん

重羽  
 其成  
 登水  
 巨川  
 五芳  
 伯先  
 竹音

一日清間一日儂



風やききあかきしーの心  
 方科きん月てんてん  
 ありてんてん  
 此てんてんてんてん  
 方明

関叟





山居汲谷

梅の影のさきも木槿とあり

月居

言乃の孝女くまの木の葉

漢甫

人かまてくくのうらぬ相大楠

葛三

ふふや歸の跡のすきし子

帯栞

つらふや歸の跡のすきし子

土只

海として丁のさきも木槿とあり

汝菊

梅の影のさきも木槿とあり

以三

ちりくや藤のさきも木槿とあり

可紅

みのびの葉のさきも木槿とあり

免柳

言明してはれり藤のさきも木槿とあり

倚風

志くまのさきも木槿とあり

壺伯

かきんさきも

下ろ月

蘭更



江村漁市

右九顆

平寅忠鑄



墨山  
物裁  
家岩の碁もろくふ小あ子る

窗前緑竹  
門外青山

右

餘延年



其の町しきまふかひりふふね 廿  
のさくつたのも  
梅のさくつたのも  
しらふもさくつたのも  
あつたのも  
あつたのも  
二月三日の



